

令和3年度 学校研究推進計画

1、研究主題

学び、関わりながら考えや思いを深めることができる子どもの育成
(三年次研究の二年目)

2、主題設定の理由

(1) 今日の教育課題から

昨年度から、新学習指導要領が全面実施された。改訂では、これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、学校で学んだことが子どもたちの「生きる力」となって、自ら課題を見つけ、自ら学び、判断して行動し、それぞれに思いえがく幸せを実現してほしいという思いが込められている。教科の中で、新しい時代に必要な資質・能力をどう育むか、「主体的・対話的で深い学び(=アクティブ・ラーニング)」をどう実現していくのかを考えていく必要がある。知・徳・体にわたる「生きる力」を子ども達に育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書などの教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科で、①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力など ③学びに向かう力人間性など の三つの力をバランスよく育てていくことを、本校でも実践していく。

また、本県で掲げている「魅力あふれる学校作づくりの推進」の一つとして、「一人ひとりのをのばす『担能力』(学習指導力+生徒指導力+特別支援教育力)」についても、本校のこれまでの研究と重なるところがあるので、意識して取り組んで行く。

山形県

「探究的な学び」の視点

- ・自分事となる課題の設定
- ・学び合いの目的の明確化
- ・まとめ・ふり返りの充実
- ・カリキュラム・マネジメント

(2) 本校の教育目標から

学校教育目標 「夢を持って自分らしく輝き 仲間とともに未来を拓く
琢成の子ども」
(好奇心で心躍る 共感・感動 自律)

学校経営の重点(キーワード) 学校は「生きる知恵を学ぶ場」、そして「心と心を通じ合わせる場」
楽しく工夫 つなぎ広げてよく考え、根拠を明確にして判断し、表現・実践

【指導の重点】

「かしこい知恵のふもとを築く」 豊かな「まなび」をはぐくむ指導	「心と体を日々にきたえる」 健やかでたくましい体をはぐくむ指導
(1) 「確かな学力」を育成するための授業改善 ・知的好奇心をくすぐる日常的な会話と問い (視点を与え意識化・矛盾・夢中・没頭) ・つきたい力(ねらい)に沿った児童の振り返りと思考の流れが見える授業作り (見通し→思考の可視化→ 根拠を明確にして判断→振り返り) (2) 家庭学習と連動した授業 ・家での学び(復習・予習・調べる・活用)を生かす授業作り	(1) 「自己管理能力」と「事故回避能力」の向上 ・自ら考え、気づきを促す指導 など (2) 体を動かす楽しさや喜びの実現 ・励まし合い合う体育の授業(友達の知恵を借りながら挑戦・あきらめない心)

→つなぎ広げてよく考え、根拠を明確にして判断・表現・実践し、課題解決に向かう力

(3) 本校の児童の実態から

○知的好奇心が旺盛

→見通しを持つことで、さらに進んで学習・行動できる。

▲失敗したくない。間違いたくない。(馬鹿にされたくない)

「失敗すること」「わからないこと」=新しいことが生まれるチャンス

→考え・思いを伝え、学び合う。(=思いを表現する)

相手に納得してもらえよう伝える、わからなかったことが学び合いによってわかる、違いを認め合い、支え合い、高め合うことができる集団を育てたい。

(4) 小中一貫教育で育てたい資質

○協働して課題解決 : 話し合ったり、相談したりして課題解決する力

○思考力・判断力・表現力 : **相手意識をもって伝えるように話す・書く力**

○学びに向かう力 : 「**夢中**」の姿(やりたい)を引き出す

→めざす姿を意識し、共通理解して達成にむけて**学校研究**に取り組む。

(5) 昨年度の成果と課題を受けて

→「令和2年度 琢成の研究」P 77～ 参照

3、研究の進め方

(1) 領域・重点

この研究主題として2年目。2年間の成果と課題の積み上げをしていきたい。

児童の実態と新学習指導要領3観点での目標設定・評価による単元づくりをベースに、国語または算数どちらかの教科を選択し授業づくりを考える。



(2) めざす姿

研究主題：学び、関わりながら考えや思いを深めることができる子どもの育成

	学 ぶ (学びに向かう力)	関 わ る (協 働)	考えや思いを深める (思考・判断・表現)
中学 2・3年	自ら進んで学習や運動に取り組んでいる。	広い視野に立って友達のいろいろな見方や考えから学び、よりよい考えややり方などを協力して作り出そうとしている。	様々な情報を整理し、根拠を持って自分の考えをより深めながら学習に取り組んでいる。
小学6年	自ら進んで学習や運動に取り組んでいる。	自分の考えと友達の考えを比べながら学習に取り組み、よりよい考えややり方などを協力して作り出そうとしている。	自分の考えをまとめ、相手に伝わるように表現(発表・書く)している。
高学年	・課題解決の見通しを立て、解決に向けて方法を工夫して取り組んでいる。	・相手の意図をくみ取るとともに、自分の意図を伝えている。	・根拠を明確にして話したり書いたりすることができる。 ・課題に対して、自分の言葉でまとめることができる。
小学4年	自ら進んで勉強や運動をしている。	友達と話し合ったり、教え合ったりして勉強している。	自分の考えを進んで発表したり、書いたりしている。
中学年	・課題がわかり、自分で見通しを持って取り組んでいる。	・友達の考えと比べ、違いがわかる。	・根拠を示して話したり書いたりすることができる。 ・課題に対して、キーワードをもとにしてまとめることができる。
低学年	・課題がわかり、取り組んでいる。	・友達の考えと同じところやちがうところを見つけている。	・わけを言って話したり書いたりすることができる。 ・課題に対して、あたえられた言葉を使ってまとめることができる。

※ 三年次は、めざす姿に対する「評価」「評価の仕方」にも取り組む。

(3) 研究の視点

視点1 学び、関わりながら考えや思いを深める

単元づくり(単元全体)の工夫

新指導要領の3観点を意識した目標・活動・評価
児童の学習への必要感 など

視点2 学び、関わりながら考えや思いを深める

本時の手立ての工夫

自分事となる課題の工夫 単元の目標に迫る対話
学び合いの環境づくり

思考の流れをあらかじめイメージする。

授業をコーディネートする。(つっこむ・混沌を生む・結びつける、など)

算数におけるわくわく問題 国語におけるスキル習得とその活用

(↑すでにあるものを積極的に活用 使用した問題やワークシートは年度末に提出)

学びに向かう力 協働

思考・表現・判断

の中で、授業者が重点を選択して手立てを設定する。